石川会計事務所
NEWSLETTER
企業の成長を加速させる「あなたのベストパートナー」
2026年 7月号

AI導入が進む部門は「総務・管理部門」が最多68.3%
― バックオフィス業務から広がる中小企業のAI活用

2026年3月、独立行政法人中小企業基盤整備機構は、「中小企業のAI等の利活用に係る実態調査」の結果を公表しました。調査によると、**中小企業のAI導入率は20.4%**。「導入を検討している企業」が18.6%、合わせると**39.0%**の企業がAI活用に前向きという結果になりました。中小企業の5社に1社がすでにAIを使い始めており、今後この数字はさらに増えていく可能性があります。

AI導入が最も進んでいるのは「総務・管理部門」

業務分野別のAI導入率を見ると、上位は次のとおりです。

1. **総務・管理部門：68.3%**
2. **営業・販売・サービス部門：60.3%**
3. **経営・企画部門：58.5%**

日々の事務業務を担う部門が上位を占める一方で、製造・生産部門の導入率は34.9%にとどまっており、AI活用の中心が専門部署ではなく身近な事務部門にあることが読み取れます。導入目的は「業務効率化／作業時間の短縮」が87.0%と最多で、多くの会社が「まず日常業務の時間を減らす」ことを目的に、AI活用を始めています。

中小企業のAI導入は「いつもの事務仕事」から

「AIを導入したいけれど、どこから始めればよいか分からない」。AI導入を検討する経営者から、よく聞かれる悩みです。しかし、今回の調査結果を見ると、そのヒントは日々の事務仕事にあります。最も導入が進む総務・管理部門は、まさに経理・総務の現場です。御社の**バックオフィスこそ、AIの一丁目一番地**といえます。たとえば、次のような業務であれば、比較的すぐにAI活用を試すことができます。

- **会議の録音やメモをもとに、議事録のたたき台を作る**
- **社内マニュアルの下書きを作る**
- **長い資料の要点をまとめる**
- **メール文面を整える**
- **請求書や経費データをもとに、仕訳のたたき台を作る**

重要なのは、最初から高価なシステムを導入することではありません。**まずは、毎日の業務の中で一度AIを使ってみること**です。早速、次回の会議の議事録づくりにAIを導入し、バックオフィス業務の時短を試してみてはいかがでしょうか。

POINT **AIはまず「いつもの事務仕事」から試してみる**

参照：
中小企業基盤整備機構「中小企業のAI等の利活用に係る実態調査（2026年3月）」
https://www.smrj.go.jp/research_case/questionnaire/fbrion0000002pjw-att/202603_AI_point.pdf

発行責任者：
石川会計事務所　石川 厚